

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である
--

1 前年度 評価結果の概要	学校名 唐津市立相知小学校 ・「個別最適な学び、協働的な学びを充実させる指導の在り方」をテーマに全職員で共通理解のもと共通実践を行い、あらゆる学びへの期待感、存在感、効力感、充実感を実感する児童を育成することができた。しかし、具体的に数値化した力としてはまだ確認ができず、来年度への課題である。 ・学校全体で業務改善に努めてきたことで、教職員一人一人が効率的・効果的・組織的な業務遂行の意識が高まっている。さらに行事の精選、指導体制の組織化を進め、教師が子どもたちと向き合う時間を確保し、よりよい教育実践ができる体制を構築する。 ・「地域と共に歩む学校へ・子どもは地域の宝」をテーマに地域連携協働活動を積極的に推進している。その結果、子どもたちが生き生きと活動する姿が見られ、一人一人の自己肯定感が高まっている。来年度もこれらの活動を継続発展させ、その過程で具体的な思考力、判断力、表現力等の育成に繋げていきたい。□
------------------	---

2 学校教育目標	保護者や地域と共に創る「笑顔の花広ぐ相知小 ONE TEAM」 「真をもって学び、笑顔でつながり、未来を創る子どもの育成」 ～おちついて うでくんで ちえを出し合う 相知っ子！～
----------	--

3 本年度の重点目標	○全教育活動を行う上で大切な土壌づくり（目に見えないもの・ことを大切に作る学校） ・主体的、対話的で深い学びの理念 ・人権・同和教育・平和教育、開発的生徒指導の理念 ・特別支援教育の理念 ・ふるさとに誇りをもつ児童の理念
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○集団の支持的風土の土壌をもとに、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業づくりによる学力向上	○児童の学習意識調査で、授業に対して期待感、存在感、充実感、達成感を感じる児童が80%以上。	・誰もが安心して授業に参加できる支持的風土の学級づくりをベースとして、全職員の共通理解のもと国語科を中心に授業研究を進め、授業改善を図る。							学力向上コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童が「友だちと協力している」、保護者が「学校は仲間づくりに取り組んでいる」の評価を85%以上にする。	・集会活動を計画的に実施し、児童に役割を与え、任せ、認める。 ・人権意識を高める取り組みとして、全校人権集会を年1回、平和集会を年1回、なかよしタイムを年7回実施する。							特活主任 各学級担任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止の取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答する職員を95%以上にする。	・学級で、全校で、正しい「言葉遣い」について重点的に取り組む。 ・いじめが起きないような学級風土づくり、学級経営についての研修を年3回以上行う。							生徒指導 各学級担任 管理職
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・各種体験活動では、児童生徒に活動の目標設定、活動の見通しと学びの振り返りを必ず行う。学びの振り返りでは、期待感・存在感・充実感・達成感の4つの感を観点として振り返りを行う。							指導教諭 各学級担任
	②「望ましい生活習慣の形成」	②規則正しい生活習慣を身に付けるとともに、昼休みに外遊びをするなど、体力増進に努めようとする児童を80%以上にする。	・外遊びを奨励する放送を行う。 ・スポーツチャレンジ等、体育的行事への積極的な呼びかけを行う。							保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上。朝食を摂って登校する児童を95%以上にする。	・給食日より保健日より朝食摂取の効果を掲載し、家庭への啓発を行う。 ・体調不良で来室した児童へ朝食摂取の聞き取りを行い、必要があれば継続的に指導する。							栄養教諭 養護教諭
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・年間において月の平均時間外在校等時間45時間以内を遵守する。 ・全職員で行事の精選、効率化による業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取組を推進していく。							教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実と工夫	○対象児童の共通理解や職員間の情報共有を図り、支援体制を整えながら、よりよい支援の充実を図る。	・適宜、ケース会議を開き、職員間で支援体制の共通理解及び組織化を図る。 ・幼稚園・中学校と連絡を密にしたり、保護者見学や説明をしたりする機会を設け、縦の繋がりを有効化する。							特別支援教育 コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○保護者・地域との連携	◎育友会、各関係団体との連携強化による体験活動の充実	◎生活科・総合的な学習の時間等に位置付けている体験活動をさらに充実させることを通じて、地域の方との交流を図り、ふるさと相知に誇りをもつ児童85%以上を目指す。	・体験活動については、例年以上の達成回数を目標とするが、併せて内容の充実にも取り組むために地域諸団体との事前打合せを入念に行い、ふるさと相知に誇りをもつ児童を育てる。							教頭

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------